



日刊報シロ日曜日... 発行所 平野新聞社

平市公會堂に於て

社會專業講習會

明日は栗林、安部兩氏

既報昨十二日平市公會堂に開
催された縣下方面委員第十八
回大會に引續く社會專業講習
會は今日十三日午前九時から前
日の方面委員に加へて市町村
長、各學校長、社會事業關係
者を招集し

平市葬

第四小學校に於て
平市では明十四日午後一時か
ら第四小學校講堂に於て中懸
出身で安藤沖合からの上陸に

土性調査と地方試験

大浦村内の八部落に八反歩 昨十二日農林種の刈上げ

縣の應援を受けて土地の選定
並に方法を整へ昨年から石城
郡大浦村に行はれてゐる土性
調査並に地方試験の水稲耕作
は村内八大字に一個所づつ一
一反歩を四十八畝に分け有肥
無肥及び各種肥料の給肥等右
試験田八反歩を三百六十に區
分する愛國二〇號、同五號、
農林三種の栽培に當るの何れ
も指導當局と力を協せて丹念
を期待されてゐる

乾草納入六萬キロ

三萬キロの見込に銃後の熱誠
石城郡から納入する馬糞干草
は三萬キロの見込みであつた
が各町村の奉仕的出動は青年
團、學校職員生徒、消防組の
共同作業と各戸割當等によつ
て草刈週間などを施行したの

出征將兵の 武運長久祈願

水戸運糧所では銃後を援
強運糧の最終日に於て管内
から四百六十名の代表者を選
み戦傷病者の平癒祈願並に
出征將兵及び派遣鐵道職員の
武運長久、身体健甦の祈願を
筑波山神社に參詣執行平驛關
係から驛長外廿三名參列した

辯論大會

昨十二日講堂で
磐城中學辯論部の雄辯大會は
昨十二日午後一時から同校講
堂に開演され部員吉田利治君
の開演、部長木村隆教諭の挨拶
ありて舌の運びに雄辯は
れたが題材の多くは時局に應
じしもので五年一週新井保
志君の「日本精神」本部五年の
吉田利治君の「君が代を唱ふ
者」など何れも銃後の誇りを
語るもので國家觀に若人の氣
を吐いた向は同會には武藝歌
謡指揮の下に、二年の軍唱
歌の響唱にこれきり非常時下
に處する緊張を促すもの多く
午後五時近く盛況裡に閉會す

岩崎小學校に 兒童音樂隊

石城郡磐崎村第一小學校學區
内に有志者が今回兒童隊の
無沙汰御許し下さいませ、
皆々御元氣の由何より
の事と存じます先日中根
大兄より中島助役さんの計
し村内出征兵の壯途をこれに

崖下に突落す

石城郡好間村日曹小田坑々夫
渡邊藤市(三)は昨十二日夜八
時頃酷雨して同坑附近の山道
を進行中行すがつまを高一
丈の崖下に突落し負傷させて
平家に檢査された

史家の態度を明にす

(特に湯本の正義町民に與ふ)
併しながら、本論の當否に
對し奉る、本郡御尊蹟の標識
方法を必然に提唱した如き一
例も、實に斯の一櫛の輕きに
足らぬ粗然たる勿來庵からで

戦地二繪葉書の御音信

拜啓、九月十七日發の御芳
信本日懐しく拜見致しまし
た、此の繪葉書を見て居り
ますと身も心も何時しか故
郷に飛んで異境にある此の
身が却つて不思議さへ思
はれて來ます、吾が父母の
おまするさとの町に見慣
れた街の軒並でも湯の獄連
山のたゞすまひにもはては
又夏井の川の流れにも懐し
い故郷の息吹が湧々と感ぜ
られ過ぎにし思ひ出が次々
と連想されて望郷の念切な
るを禁じ得ません、猪狩さ
んのお宅も見えぬ様ですな
本當に有難う御座いました
何時も乍らの御厚意只感謝
の外御座いません、今夜は
徹夜ですが何んだか郷里の
出札室で徹夜をしてゐる様
な氣がします、其の後の御
無沙汰御許し下さいませ、
皆々御元氣の由何より
の事と存じます先日中根
大兄より中島助役さんの計
し村内出征兵の壯途をこれに

戦病死者の弔問

高橋水戸運糧事務所長は昨十
二日來平し平野からの派遣職
員で病歿したる磐崎村次氏及
び同職死者櫻岡部員鈴木喜久
雄君の遺族を訪ひて一封を贈
つて慰問をせす

鐵道遺家族慰問

平驛關係の出征者及び派遣職
員の遺家族慰問のため銃後強
調期間中高橋水戸運糧事務所
長來平各戸を訪問した

磐崎校旗樹立式

石城郡磐崎村の若松總一郎氏
は此の程同村小學校旗一旗
を寄贈したので同校では來る
十六日の秋季運動會當日樹立
式を舉行すると

四倉藪市況

平均五十五、六圓
四倉藪市場に於ける晚秋藪は
漸次出廻り薄となつてゐるが
去る十日から昨十二日の取引
は左記の如くであつた
▲十日出荷四〇五費二六
總價格二二七八圓一四 最
高五八圓九〇 最低五〇圓
五〇 平均五六圓二〇
▲十一日出荷四三九費六八
總價格二四〇四圓 最高五
八圓二〇 最低五〇圓一〇
平均五五圓九〇
▲十二日出荷一四五費九九
總價格三〇〇圓一〇 最高
五七圓三〇 最低五一圓八
〇 平均五五圓八〇
雲州神國印ソロバン
優勝印高級ソロバン
ウエル 萬年筆
ライトインキ
ムツリニペン
玉泉堂の書道筆
大橋印の書道筆
魁文堂
電話三一三

と發覺平野に檢査された
よつて救送すると
取押へを容易ならしめた氣轉
に對し同署から縣に向つて表
彰方申請中であつたが右三名
は今回金一封を添えて縣刑事
協會から表彰された

湯本の二史蹟に對して
史家の態度を明にす
(特に湯本の正義町民に與ふ)
併しながら、本論の當否に
對し奉る、本郡御尊蹟の標識
方法を必然に提唱した如き一
例も、實に斯の一櫛の輕きに
足らぬ粗然たる勿來庵からで

産業

オサツから 醸酒精造

(上) 燃料國策に際する 石岡工場の実現

ガソリン混用の國策燃料として大蔵省専賣局が力増を入れてある甘藷を原料とする無水アルコール工場の一つである茨城縣石岡工場は本年六月から製造を開始し約燃費度を超える工場内で工場長以下百餘名の従業員が汗みどろの作業に當つてゐるが汗の結晶が見事な業績で工程もすべてが○純粋度九十九・九%と云ふ素晴らしい無水アルコールが好ましいほど濃々と湧出し貯蔵タンクを満腹させて早くも帝都にデビューさせ非常時國策の第一線に躍り出ることになった、さて此のオサツが變じてアルコールとなる工場の大要を述べて見やうならば

◇原料は農家で收穫された甘藷は貯蔵の便宜上切干となして八貫乃至十貫目入りの吹或は俵入りとして包装し農業者の手を経て運賣するのであるが此の運賣りから工場搬入までが幹線農業者団体の仕事であつて入庫と同時に完了する、昨年は種々の事情でうまくなかつたが今年は際下から切干で八百八十萬貫、生甘藷で二百四十萬貫(生換等合計約一千六百萬貫)の甘藷が購入されアルコール原料として茨城縣の「飯沼種」が最良と云ふので今年は大分これが普及してゐる

◇フシロ法、澱粉を糖分に變化させる所謂糖化の形式で澱法、麥芽法、酸糖化法

フシロ法等があるがフシロ法が採用されてゐる。

皇軍戦勝ニ冬品會の第一線に立つ

ツルヤ 漸新型 豊富陳列

子供帽子 中折帽子

日	品	目	定	目	目
日	カ	ツ	レ	ツ	レ
月	カ	ツ	レ	ツ	レ
火	カ	ツ	レ	ツ	レ
水	カ	ツ	レ	ツ	レ
木	カ	ツ	レ	ツ	レ
金	カ	ツ	レ	ツ	レ
土	カ	ツ	レ	ツ	レ
日	カ	ツ	レ	ツ	レ

特にマルトモのランチは...

材料のあまかさを削つて居る爲め其の飾りの美しい新鮮な物を御覧出来ますので御座客様からいつも御好評を戴いて居ります

御来店御召上りの時も御來客御用仕出し等概べて御座客を御案内下さつてあまかせ願へますれば季節の材料で美味快適なものをご調理出来ましますので之を非常に御好評を御座います

RESTAURANT MARUTOMO

堂食モトルマ

平市通 車場通

電話 二二三

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

平市田町 電話五二三番

高久病院

院長 醫學士 高久忠

カバと洋品類



眞砂屋 (電話五六五)

(前驛、市平) (り通道新)

病室増築、手術室完備

産科 醫學博士

婦人科 五十嵐雄二

平市新川町 電話二六九番

帝國海上火災保險株式會社

平代理店 關内正一

平町二丁目 事務取扱者 阿部助次郎

電話 一六番

サロソ

町田平 二九三電

飲食 喫茶 酒場を兼ねた。

レストラン

牛も豚も優良品の自慢

肉の御用合は 三三三屋

平市 田町

藤沼醫院

平市紺屋町 電五〇七

◇一般印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社印刷部

大河内

平市搦小路

整形科 外醫院

電話五八八番

新時代の要求

附屬生室に等外看護婦を特設いたし皆様の御用向へ身元確かなる婦人を派出致します

平市南町 電三〇七

平看護婦會

御手不足の御家庭 軽い御病人の付添 妊婦産婦の御家庭

請毒下しの大妙藥

安流丸

特約 山野通藥局

平市南町 五丁目 山野通藥局

債券 公債 両替 金融

多田井質店

市大工町 電話五九一番

和洋銅鐵、金物問屋

店南屋美

九九・九九